

看護師の過労死と転職サイト

2013/6/20

看護情報学特論 I

13MN009 浜岡亜衣

現代日本社会の実情

- * 仕事は、暮らしを支え、生きがいや喜びをもたらす。同時に、家事・育児、近隣との付き合いなどの生活も暮らしには欠かすことはできないものであり、その充実があってこそ、人生の生きがい、喜びは倍増する。

しかし現実の社会には

- * 安定した仕事に就けず、経済的に自立することができない
 - * 仕事に追われ、心身の疲労から健康を害しかねない
 - * 仕事と子育てや老親の介護との両立に悩む
- など、仕事と生活の間で問題を抱える人が多くみられる

こんな日本に誰がした？

* 過労死

KAROSHIは、英語の辞書にも記載されている

* ニート

* 就職難

* ブラック企業

* 介護疲れ

* 一家心中

* 自殺

* リストラ

etc...

看護師の過労死

- * 東京都の済生会中央病院
- * 大阪府の国立循環器センター

看護師の在職死亡例が業務上の認定を受け、裁判において過労死の判定が確定された

看護師の労働の実情

- * わが国の病院勤務看護職員総数約82万人(平成19年度厚労省「医療施設調査・病院報告」)のうち約2万人が、この過労死危険レベルの勤務をしている
 - ⇒交代制勤務者、過労死危険レベル(月60時間を超える時間外勤務)は、23人に1人
- * 3交代勤務者のうち、6割弱は勤務間隔が6時間以下のシフトあり

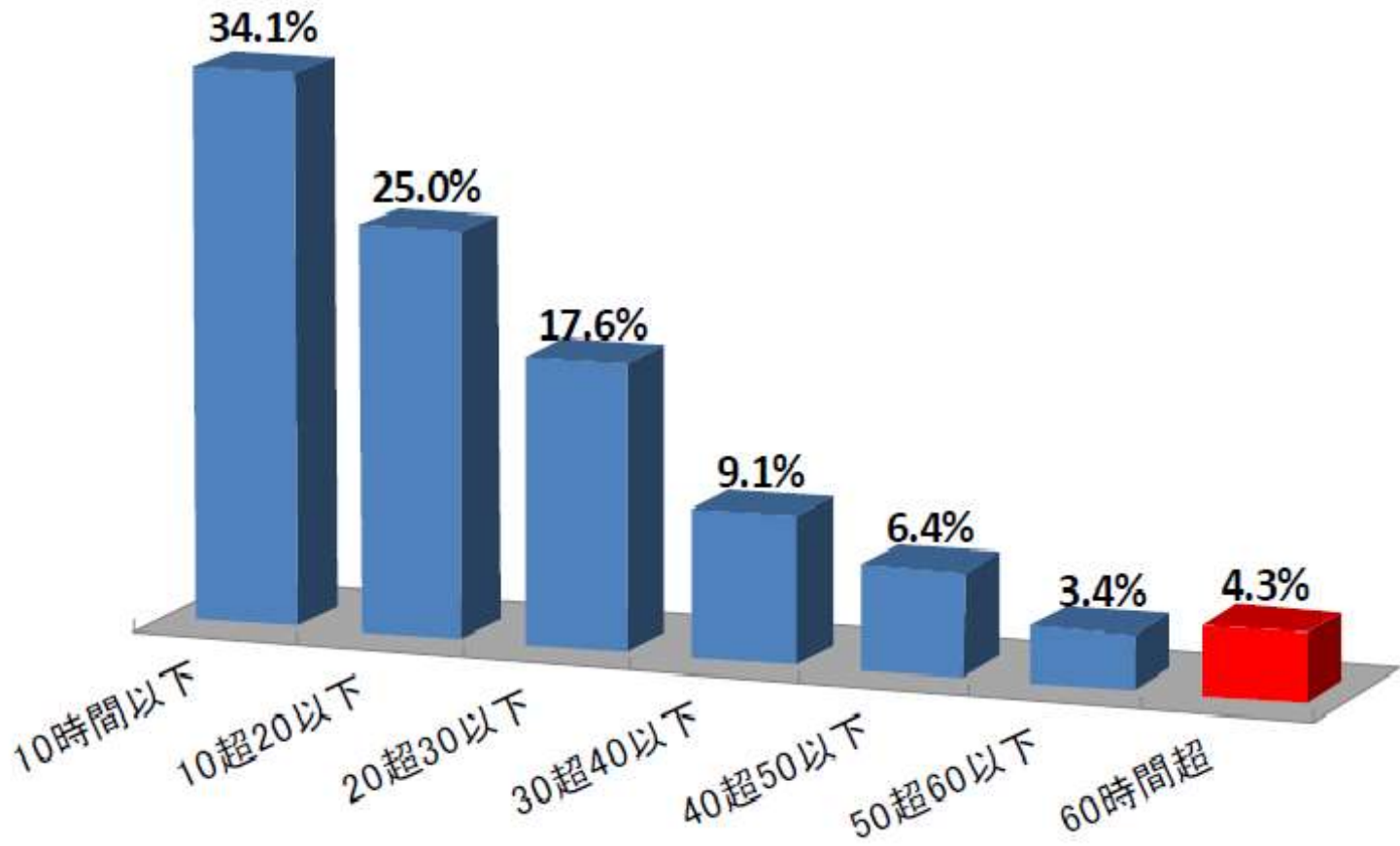


図 1: 交代制勤務者の時間外勤務時間数の分布

20代看護師が疲れている

* 20代の時間外勤務時間が長い

時間外勤務時間数を年齢階層別にみると、20代が他の世代よりも長く、平均で25.9時間となった。さらに、20代の1/4は月35時間を超える時間外勤務をしていた

* 20代は疲労感を特に強く感じている

慢性疲労兆候を示す疲労自覚症状として以下の7項目を質問したところ、20代が7項目中5項目で他の世代よりも回答率が高く、さらに4項目以上回答した者が37.3%と、他の世代より多くなっていた

①朝起きたとき、ぐったりした疲れを感じる

②以前と比べて疲れやすい ③へとへとだ ④やる気が出ない

⑤ゆううつだ ⑥いらいらする ⑦物事に集中できない

「看護師 過労死」で検索していて 気が付いたこと

- * なぜか転職サイトが検索結果で上位に残る

中身を見ていてあることに気が付いた

- * 看護師転職サイトで、看護師の過労死について触れている
- * そして「過労死する前の転職」を勧めている・・・！！

実際の転職サイト

テーマ一覧

- * 看護師の過労死予防
- * 看護師の過労死について
- * アルバイトとして続ける
- * 転職支援金について
- * 転職エージェントのメリット
- * 世界の過労死について
- * 看護師の再就職

実際の転職サイト

・・・引継ぎの超過勤務や、通勤時間、さらに通勤時間などを考えてもかなり少なくなります。また、これに家事などを考えると、休む時間すらなくなります。このように、休む時間もなく毎日働くということが過労死の一因になっているのはいうまでもありません。子育てや、介護しながら看護師を続けるというのは難しい状態です。ただ、勤務先のこのような勤務体制を個人の方で変えていくのはほとんど無理でしょう。ですので、自分自身を守るためにも、働く環境整っている勤務先に転職するのがいいでしょう。看護師に特化した求人応援サイトなどでは、日勤のみや残業なしなどの求人も充実しているそうです。

『勤務先の勤務体制を個人の方で 変えていくのはほとんど無理』？

- * 看護師が、この発想では勤務体制は変わっていかないだろう
- * でも、私自身、病院に勤務しているときはそう思っていた
確かに、個人の方で変えていくのは難しい
- * 労働条件の改善の見られない病院は、転職による看護師減少で、自然淘汰されるのか？
- * 自分だけ転職すれば済む話なのか？
- * このままでは、過酷な勤務条件も過労死の危険も変わらないのでは？

国が考える 日本が目指すべき社会の姿

- * 国民一人ひとりが、やりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会

1 就労による経済的自立が可能な社会

- * 経済的自立を必要とする者、とりわけ若者がいきいきと働くことができ、かつ、経済的に自立可能な働き方ができ、結婚や子育てに関する希望の実現などに向けて、暮らしの経済的基盤が確保できる。

2 健康で豊かな生活のための時間が確保できる社会

- * 働く人々の健康が保持され、家族・友人などとの充実した時間、自己啓発や地域活動への参加のための時間などを持てる豊かな生活ができる。

3 多様な働き方・生き方が選択できる社会

- * 性や年齢などにかかわらず、誰もが自らの意欲と能力を持って様々な働き方や生き方に挑戦できる機会が提供されており、子育てや親の介護が必要な時期など個人の置かれた状況に応じて多様で柔軟な働き方が選択でき、しかも公正な処遇が確保されている。

私が考えた 看護師ひとりひとりができること

- * 時間外労働をサービス残業しない ちゃんと申告する
 - ⇒「残業するのは低能だから」はパワハラ
 - 上司に言わせない・後輩に言わない
- * 看護師でなければできない専門性を再確認する
 - ⇒病院の「なんでも屋さん」からの脱却
- * おかしいことは、おかしいと言う

私が考えた組織がすべきこと

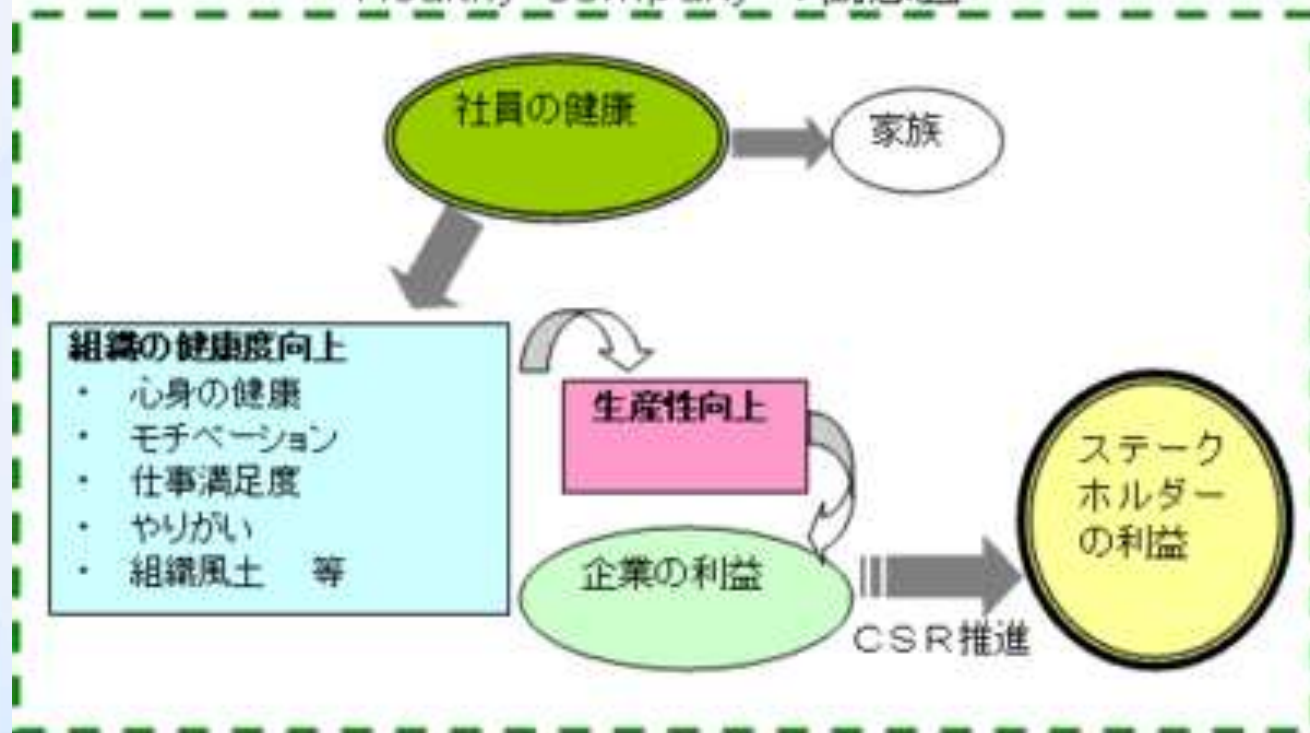
- * 実際の労働時間の調査
始業前労働・サービス残業
- * 業務内容の再確認
多職種に移譲できる業務はないか？
- * 労働基準法などの労働に関する関連法規に組織構成員すべてが詳しくなる

ヘルシー・カンパニー



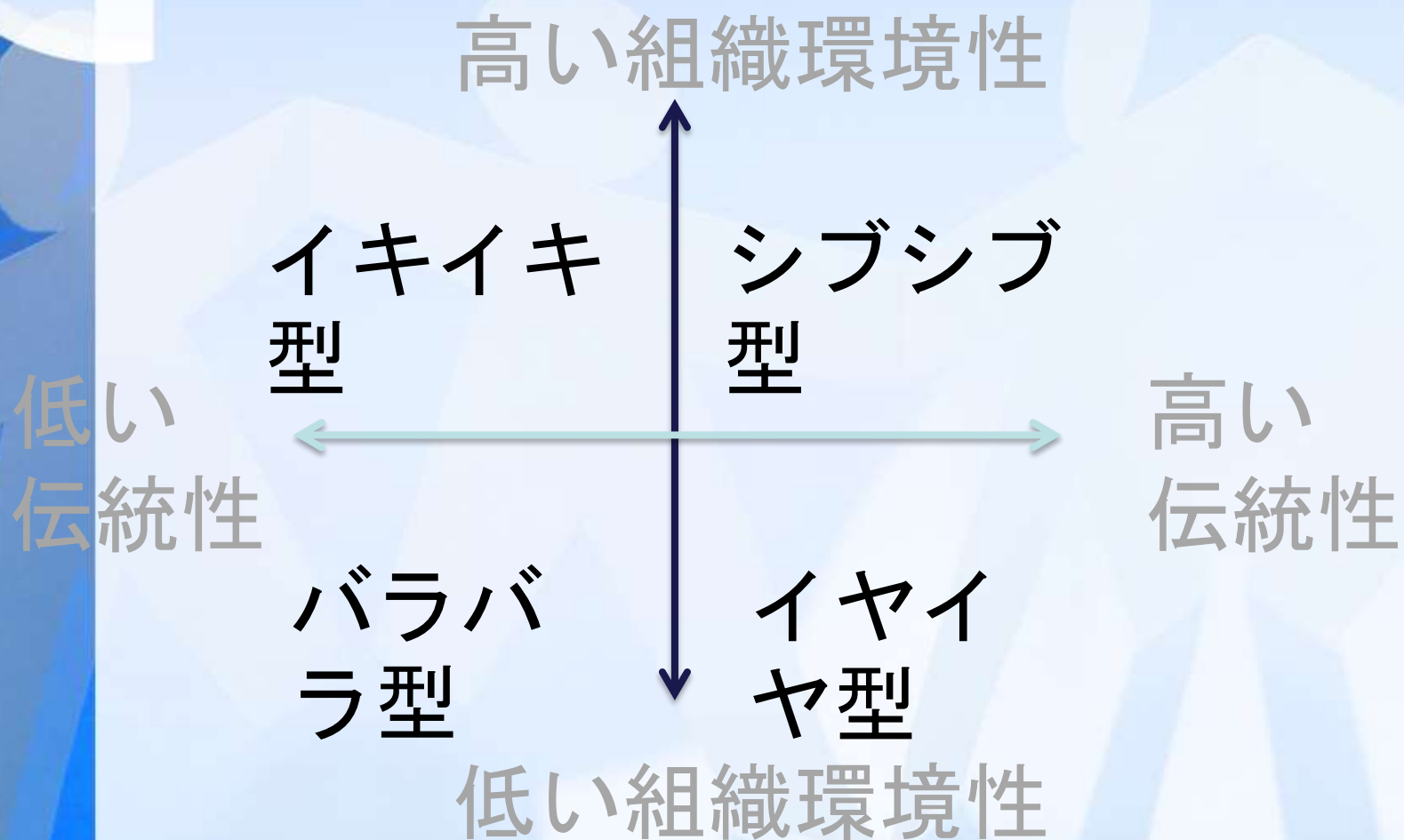
米国の経営学者ロバート・ローゼン「健康な従業員が収益性の高い会社をつくる」

Healthy Company の概念図



(「The healthy COMPANY (Robert H. Rosen, 1992)」の意図より三菱総研作成)

組織風土の4つのタイプ



めざせ、 ヘルシーホスピタル！イキイキ型！

- * スタッフすべてが、長く健康にイキイキと働ける病院を目指そう